

2017年度 湘南藤沢学会研究助成基金 成果報告書

「ベトナムフィールドワーク」

慶應義塾大学 総合政策学部 4年 野村 美公

1. 活動概要

現在3期目にあたる個人研究にて、分析対象としているベトナムビンディン省フーキャット地区「ドリームクラスプロジェクト」の関係者及び地域について、情報・データ収集を行うため、2017年6月16日から21日までの6日間、現地フィールドワークを実施した。

この研究は、外部者によって開始されたプロジェクトのステークホルダーが、どのように「受動的 (Passive)」な状態から「能動的 (Active)」な状態に変化していくのかを探ることを目的としている。外部者によって開始されたプロジェクトとして、ベトナムフーキャット地区にて梅垣理郎名誉教授とヴレタオチ特任講師によって開始された、障害児・者の社会化を後押しするためのプロジェクト「ドリームクラスプロジェクト」を対象とし、ステークホルダーとして医療機関スタッフやボランティア教員に対してインタビュー調査を行っている。

状態	定義
Passive	自分の受け持つ役割の中で、定められたことのみを行っている状態。
Sub-active	自分の受け持つ役割の中で、新たな取り組みする・取り組み方を変化させている状態。
Active	自分の受け持つ役割を広げて、プロジェクトの運営に関わる役割を果たし始めた状態。

2. 活動の成果

- ・ドリームクラス2ボランティア教員3名へのインタビュー (87分)
- ・ドリームクラス1ボランティア教員2名へのインタビュー (13分)
- ・ドリームクラス1開催集落診療所スタッフ1名へのインタビュー (16分)
- ・ドリームクラス1開催集落診療所医師1名、スタッフ2名へのインタビュー (88分)
- ・ドリームクラス3開催候補集落診療所医師1名へのインタビュー (32分)
- ・ドリームクラス1,2訪問 (授業内容や障害児・者の交流を観察)
- ・障害児・者家庭訪問10件 (キャッチン2件、キャットン4件、キャットミン4件) 各家庭30分程度のインタビュー調査 (家族構成や障害の種類など基本情報の収集)



過去のインタビュー調査の回答に、今回のインタビュー調査の回答を加え、ドリームクラスプロジェクトの関係者の状態を、以下の表のように評価した。

		ドリームクラスの コンセプト	運営資金の獲得	運営資金や物品の 提供	授業内容の作成
Red Cross		×	×	×	×
People Committee		×	×	×	×
School Principle	DC1	×	×	×	○
	DC2	×	×	×	×
Teachers	DC1	×	×	×	×
	DC2	×	×	×	○
Medical workers	Phung	×	×	×	×
	Dat	×	×	×	×
	Local People	×	×	×	×
Others	Parents	×	×	×	×

		クラスの実施	管理	別地区でのドリーム クラス設立	ドリームクラス 参加への相互協力
Red Cross		x	○	x	x
People Committee		x	○	x	x
School Principle	DC1	x	○	x	x
	DC2	x	○	x	x
Teachers	DC1	○	x	x	x
	DC2	○	x	x	x
	Phung	△	○	x	x
Medical workers	Dat	x	○	x	x
	Local People	x	x	x	x
Others	Parents	x	x	x	x

▲ Active/Passive Matrix (○：受け持つ役割、枠内色：なし Passive, 薄橙 Sub-active, 濃橙 Active)

また、受動的な状態から能動的な状態への変化に関しては、以下のようにまとめた。

(1)Passive の状態から変化しない (集落診療所・医療助手、表中”Phung”)

- ・一見、プロジェクトに対して能動的にみえる行動をしているが、この人物のプロジェクトに関連した行動は、その時々はその場にいる他者への自己演出となっており、プロジェクトのための行動とは言えない。
- ・自身の担う「役割」に対して、他者の期待を自分なりに解釈し行動しているが、それに対する他者の反応を見て解釈の修正を行う傾向が見られない。それゆえ、当人は変化せず、周囲にも変化を及ぼさない。

(2)Passive→Sub-active に変化する (ボランティア教員、表中”Teachers”)

- ・行動自体のコストが低いいため継続的にプロジェクトに関わっている。強いインセンティブは存在しないし、参加を辞めることもあまり意識されない。
- ・緩やかに活動を続ける中で、変化する状況 (例：生徒が増える、生徒の学習進度に差が出る) に対応するために、行動を変えている。
- ・ドリームクラスに教員として参加すること自体の決定権は当人たちにはないと考えている。つまり、継続が前提となった中で、授業運営への取り組み方を変えることでコストを下げようとしている。(例：担当授業日をルーティン制にする)

(3)Sub-active→Active に変化する (地区保健所・元所長、表中”Dat”)

- ・ドリームクラス設立前に実施された梅垣名誉教授の調査活動時からの付き合いがあり、ドリームクラス1設立に深く関わっている。
- ・ドリームクラス1が地域に受け入れられ、5年間継続されてきた様子を見ており、自身の出身地であるキャットミン集落でも取り入れたいと考えるに至った。(動機の形成)

3. 今後の展望

今後、これまでの調査を踏まえて、論文を執筆する。プロジェクトのステークホルダーが変化していることを前提としすぎていたが、実際の調査活動から、大きな状態の変化をみせている人物は多くないことがわかってきた。

そこで、変化を引き起こすものを、役割の意識や自我の認識の関係を、シンボリック相互作用論等を用いながら考察していきたい。

4. 謝辞

本活動の実施に際し、ご指導いただいたヴレタオチ特任講師・梅垣理郎名誉教授始め、ご協力いただいたミン・ザン氏、現地での通訳や案内でご協力いただいたチュン・クワン・ダット博士及びご息女ニーさん、そして資金面にてご支援いただいた湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。

2017年7月11日
野村 美公